

教育研究業績書

2018年11月21日

所属：教育学科

資格：講師

氏名：井谷 信彦

研究分野	研究内容のキーワード
臨床教育学, 教育人間学, 教育哲学	教育者の即興の技量, 教育の現象学, ボルノウの教育思想
学位	最終学歴
博士 (教育学)	京都大学大学院 教育学研究科 臨床教育学専攻 博士課程 満期退学

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1. 即興演劇や音楽の手法を取り入れた体験型授業	2013年04月～現在	「教育原理／教育原論」「教職実践演習」「教育演習」「学び発見ゼミ」「初期演習」など多くの授業で、即興演劇や音楽に用いられている手法を取り入れた実践をおこなう。役者や音楽家のトレーニングにも用いられているワークやゲームを実施することで、受講者の学び／遊びに取り組む姿勢や、対人関係スキル、自己理解／他者理解などを育むことを目的とする。活動の実施後には省察の機会を設けることによって、受講者一人ひとりが自己の体験を振り返り、自分なりの学びを深めていくための機序とする。
2. 各種「ゼミノート」を用いた省察型授業	2013年04月～現在	「教職実践演習」「教育演習」「学び発見ゼミ」などの授業において、受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノートを配布、各回の授業後に記入・提出を求める。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。授業のなかで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、実践にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
3. パワーポイントとハンドアウトを用いた講義	2011年04月～現在	「教育原理／教育原論」などの講義形式の授業において、予め作成しておいたスライドを教室前方のスクリーンに映写することで、これを逐次参照しながら講義を進める。受講者は事前にWEB公開されているスライドの要約版を授業前に印刷・通覧しておき、あらかじめ講義の概要を把握したうえで授業に臨む。授業中に投影されるスライドには、要約版には書かれていない内容や、画像資料なども多く含まれている。受講者はスライドや講義によって事前学習の内容を補完するかたちで学習を進める。
4. 授業実践の記録などの映像資料を用いた講義	2011年04月～現在	「教育原理／教育原論」などの講義形式の科目において、授業実践の記録や映画作品などを視聴したうえで、教育について理解を深めるうえで重要なポイントについて、受講者同士の意見交換や講義をおこなう。例えば授業実践に関しては、当該実践の優れている点や、改善が求められる点を、理由と共に発表しあう機会をもつ。これにより、学級づくり、授業づくり、子どもの心理、教育者の役割などに関する受講者の理解を深め、現実の教育実践の勘所を見極めることのできる目を養う。
5. 授業内容、参考資料、課題などのWEB公開	2011年04月～現在	「教育原理／教育原論」などの講義形式の科目において、予め作成しておいたスライドの要約版や参考資料をWEBに公開することにより、受講者による事前学習の促進をはかる。受講者はWEBに公開された資料を授業前に印刷・通覧しておき、あらかじめ講義の概要を把握したうえで授業に臨む。授業中に投影されるスライドには、要約版には書かれていない内容や、画像資料なども多く含まれている。受講者はスライドや講義によって学習内容を補完するかたちで学習を進める。
2 作成した教科書、教材		
1. 「教育演習」即興×教育・保育ゼミノート	2016年04月	「教育演習」の受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノート。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。授業のなかで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、自己の実践にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
2. 「学び発見ゼミ」学び発見ゼミノート	2013年09月	「学び発見ゼミ」の受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノート。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。授業のなかで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、日常生活にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
3. 「教職実践演習(小)」探求ノート	2013年04月	「教職実践演習」の受講者が授業内容を振り返って書きとめるためのノート。ノートには授業中に体験したこと、感じたこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。授業のな

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
4. 「教育原論／教育原理」ワークシート	2011年04月	かで何を体験したのか、ここから何を学べるのか、自己の実践にどう活かせるのかを整理することで、受講者一人ひとりが省察をとおして学びを深める機会とする。
5. 教育学関連授業 コメント用紙	2011年04月	「教育原理／教育原論」などの講義形式の授業のなかで、各回の終わりに取り組むコメント用紙。各回の授業をとおして学んだこと、考えたこと、発見したこと、疑問に思ったことなどを書きとめる欄が設けられている。毎回このコメント用紙に取り組むことをとおして、受講者が自己の学びを振り返って整理するとともに、授業者からのフィードバックを受け取ることで学びを深める機会とする。
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 授業外のワークショップの実施	2013年04月～現在	主に教育に関心のある本学の学生向けに、授業外のワークショップを、複数実施してきた。内容は、授業運営や学級運営、附属幼稚園の保護者との交流など。体験をとおして学ぶことを趣旨とするワークショップは、学生からも保護者からも高い評価を得ている。
4 その他		
1. 授業外における学生支援	2011年04月～現在	クラス担任、ゼミ担当、留学引率者などとして、多くの学生の支援・指導にあたってきた。またこのほかにも、勉学、家庭環境、友人関係、進路選択などに困難を抱える学生を、多く支援してきた。加えて、附属高校生向けの授業をおこなうなど、多方面の学生・生徒支援に尽力してきた。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1. 高等学校教諭第一種免許	2003年03月	国語科
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1. 地域貢献・社会連携に関する事項	2011年04月～現在	教育関係者、一般社会人、大学生向けのワークショップを多数主催。また、教員免許状更新講習講師、西宮市教育委員会主催の教員研修講師、同市の教科書選定委員会委員などを務めてきた。加えて、大学と教育委員会との連携の企画・運営、NPO法人との協働による講座の実施、高校生向けの出前授業などにも携わってきた。
2. 大学運営に関する事項	2011年04月～現在	全学共通教育委員、入試問題作成委員、学科入試委員、MFWIおよびSMU留学引率、学科FD担当、大学院教育学専攻倫理審査委員長、同紀要編集副委員長、同広報担当、オープンキャンパス担当、入学試験監督、および教育懇談会への出席などとおして、大学の運営に貢献してきた。
4 その他		
1. 教育哲学会第1回奨励賞	2015年10月	

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1. ワークで学ぶ教育課程論	共	2018年04月	ナカニシヤ出版	読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教職課程などの授業で用いることを想定。担当は、第18章「遊びで満たされた学びの舞台 主体性の育成とパフォーマンス的な学び」（単著）pp. 243-255。学習指導要領などに示された「主体性」という理念の内実を明らかにしたうえで、主体性の育成に関わる教育のパフォーマンス的な特徴を解説。即興演劇の知を活かしたワークをとおして、主体性の育成にとって欠くことのできない、play（遊び／演技）の要素の意義を提示。（尾崎博美、井藤元、井谷信彦ほか著）
2. いまがわかる教育原理	共	2018年03月	株式会社みらい	教師・保育士をめざす大学生のための教科書。主に教育原理などの授業で使用することを想定。担当は、第1章「教育の意義 ヒトは教育によって人間になる」（単著）pp. 14-25。いわゆる「オオカミに育て

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
1 著書				
3. 臨床教育学	共	2017年10月	共同出版	<p>「られた少女」のエピソードを題材に、「人間になること」と教育との関係を概説。さらに、「人間らしさ」を定義することの難しさにも触れ、人間の本质をめぐる「開かれた問い」の重要性を提示。個人と社会という2つの視点を示したうえで、教育をめぐる思索への導入をおこなった。(井谷信彦、猪熊弘子、西本望ほか著)</p> <p>人間/動物、芸術体験、バトスの知など、多様なテーマに照らして、創設から30年を迎える臨床教育学の、到達点と課題を明らかにした論集。担当は、第5章「教師のタクトと即興演劇の知 機知と機転の臨床教育学序説」(単著) pp.113-138。J. F. ヘルバルトからM. ヴァン=マーネンまでの、教師の即興の技量としてのタクトに関する理論と、現代のK. ソーヤーやL. ホルツマンに見られる、即興演劇の知の活用に関する理論を検証。両者から導かれる教師のタクトの特徴と育成方法を提示。(矢野智司、西平直、井谷信彦ほか著)</p>
4. 教育思想事典 増補改訂版	共	2017年09月	勁草書房	<p>古代から現代までの教育思想に関する事項・人名事典。2000年に出版された初版の増補改訂版。担当は、「ハイデガー」の項(単著) pp.617-618。ドイツの哲学者M. ハイデガーの経歴や、存在者の存在をめぐる思想の変遷を概説。さらに、ハイデガー哲学から影響を受けた教育思想の特徴を、O. F. ボルノウとTh. パラウフの二人を代表例として解説。(松浦良充、江口潔、井谷信彦ほか著)</p>
5. ワークで学ぶ教職概論	共	2017年04月	ナカニシヤ出版	<p>読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教職概論などの授業で用いることを想定。担当は、第11章「想定外の出来事にも準備はできる? 教師の即興の技量としてのタクト」(単著) pp. 142-154。J. F. ヘルバルトからM. ヴァン=マーネンまで、教師の即興の技量の特徴と育成方法に関する理論を概説。教育をめぐる理論に深く精通すること、教育実践の経験を積み重ねること、この経験の意味を探究することを、教師のタクトを養うための方法として提示。(尾崎博美、井藤元、井谷信彦ほか著)</p>
6. 災害と厄災の記憶を伝える 教育学は何ができるのか	共	2017年01月	勁草書房	<p>教育関係者や災害対策の専門家による、厄災の記憶と伝承をめぐる論集。担当は、第九章「問いの螺旋へ 東日本大震災と教育哲学者の語りの作法」(単著) pp.258-283。O. F. ボルノウとM. ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあつて、教育哲学者が取りうる語りの作法を提唱。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。※井谷信彦(2013)「問いの螺旋へ 教育哲学者の語りの作法」『教育哲学研究』第108号の加筆・修正版。(山名淳、矢野智司、井谷信彦ほか著)</p>
7. ワークで学ぶ道徳教育	共	2016年03月	ナカニシヤ出版	<p>読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に道徳教育関連の授業で用いることを想定。担当は、第11章「ダメ!といわれるとやりたくなる? 「悪いこと」と子どもの人格形成」(単著) pp.140-154。映画や絵本を題材としながら、子どもたちが「悪いこと」に惹かれる理由や、悪の体験と人格形成の関係を概説。これにより、単に「悪いこと」を懲らしめ「善いこと」を勧めるだけに留まらない、道徳性の育成に携わる教師の複雑かつ重要な役割を明らかにした。(井藤元、尾崎博美、井谷信彦ほか著)</p>
8. ワークで学ぶ教育学	共	2015年04月	ナカニシヤ出版	<p>読者が主体となって取り組めるワークを多く取り入れた教科書。主に教育原理などの授業で用いることを想定。担当は第14章「なぜ勉強しなくちゃいけないの? 子どもの問いに向きあうために」(単著) p.175-187および第19章「ディスカッション テーマ集」(単著) pp.242-254。前者は、学ぶことの意義に疑問を抱く子どもに、共感しながら向きあうための作法を説き明かした。後者は、本書の内容を振り返って整理しながら、教育の本質に関わるディスカッションのテーマを示した。 (尾崎博美、井藤元、井谷信彦ほか著)</p>
9. 存在論と宙吊りの教育学 ボルノウ教育学再考	単	2013年03月	京都大学学術出版会	<p>哲学者M. ハイデガーの存在論を導きとして、現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論に孕まれている問題点を検証。さらに、ハイデガー哲学を規定している「知の宙吊り」とでも呼ぶべき方法を精査することで、ボルノウ教育学をはじめ現代の教育</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
10. 臨床の知 心理臨床学と教育人間学からの問い	共	2010年11月	創元社	<p>／教育学が抱えている、有用性と価値の偏重という問題を克服しようとするような、新たな教育／教育学の構想を提示。これにより、教育の根幹に関わる「学ぶこと」「教えること」の両概念の射程を、「役に立つか否か」という尺度を越えた領域にまで敷衍。※学位論文「存在論と『宙吊り』の教育学 ボルノウ教育学の再考を軸に」の加筆・修正版。</p> <p>心理臨床学や教育の実践を支える「臨床の知」の特徴を、心理臨床学と教育人間学の視座から問い直した論集。担当は第六章「宙吊りにされた『知』の形式危機に関わる『知』としての『臨床の知』」（単著）pp.117-137。O. F. ボルノウが成熟の機会として論じた「危機」に関わる「知」の特徴を詳しく検証。これにより、「臨床の知」とは実体として与えられている確固たる知識ではなく、危機のような抜き差しならない出来事に襲われる瞬間に、一種の「予感」または「合図」として、生起するものであることを説き明かした。（矢野智司・桑原知子・井谷信彦ほか著）</p>
2 学位論文				
1. 存在論と『宙吊り』の教育学 ボルノウ教育学の再考を軸に	単	2011年03月	京都大学に提出、学位（教育学）を授与された、博士論文	<p>哲学者M. ハイデガーの存在論を導きとして、現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論に孕まれている問題点を検証。さらに、ハイデガー哲学を規定している「知の宙吊り」とでも呼ぶべき方法を精査することで、ボルノウ教育学をはじめ現代の教育／教育学が抱えている、有用性と価値の偏重という問題を克服しようとするような、新たな教育／教育学の構想を提示。これにより、教育の根幹に関わる「学ぶこと」「教えること」の両概念の射程を、「役に立つか否か」という尺度を越えた領域にまで敷衍。</p>
3 学術論文				
1. Toward the Spiral of Questioning : A Manner of Thinking and Writing for Philosophers of Education after 3.11	単	2016年11月	English E-Journal of the Philosophy of Education. vol. 1	<p>O. F. ボルノウとM. ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあつて、教育哲学者が取りうる語りの作法を提唱。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。※井谷信彦（2013）「問いの螺旋へ 教育哲学者の語りの作法」『教育哲学研究』第108号の加筆・修正・英訳版。pp. 1-24</p>
2. 光を教育哲学する プラトン、コメニウスからフィンク、パトチカへ	共	2016年05月	『教育哲学研究』第113号	<p>プラトンやコメニウスによる「光」をテーマとする教育思想と、フィンクやパトチカによるその受容を検証することで、「光」をテーマとする教育哲学の可能性を探求。指定討論者として、プラトンとハイデガーをつなぐ「光の教育哲学」の特徴が、真理を伝えようとする教師の受難にあることを指摘（単著）pp.163-164。コメニウス、パトチカ、フィンクらの思想における教師の受難と情熱（passion）をめぐる論点を提示。※同題のラウンドテーブルの報告論文。（田端健人、相馬伸一、武内大、井谷信彦）</p>
3. タクトの啓発と意味生成の螺旋 ヴァン＝マーネンの省察理論の循環構造	単	2015年03月	『学ぶと教えるの現象学研究』vol. 16	<p>ヴァン＝マーネンの省察理論に見られる循環構造に関する「読者からの疑問」を出発点として、教師の即興の技量としてのタクトの啓発に関わる、省察の構造を探索。省察の本質に関わる要素として、教育事象への深い関心や、生の複雑性、教師の思慮深さ、「ありうること」への開放、間主観性に基づく審理などの特徴を解明。これにより、「意味への問い」と「意味の発見」を往還しながら問い深められてゆく、螺旋型に深まりゆく意味生成のプロセスとしての省察の構造を明らかにした。pp. 27-40</p>
4. 風景芸術と教育の「再生」 建てること、住まうこと、制作すること	単	2015年03月	『理想』694号	<p>美術家・田窪恭治氏による図画工作の授業に見られた、児童や講師らによる体験の特徴を、存在論の視座に基づいて説き明かした。主題としたのは、NHKにより企画・実施された宇和津小学校の授業実践「ぼくらの学校 ぼくらがつくる!？」と、なぎさ小学校の授業実践「HATの未来をかたちにしよう」。これらの授業風景の分析と講師へのインタビューなどにもとづいて、都市や、学校、人間、教育の「再生」に関わる、この実践の意義を明らかにした。pp. 30-41</p>
5. 問いの螺旋へ 教育哲学者の語りの作法（査読付）	単	2013年11月	『教育哲学研究』第108号	<p>O. F. ボルノウとM. ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあつて、教育哲学者が取りうる語りの作法を提唱。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく</p>

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
6. タクトの啓発と「ありうること」への開放 ヴァン=マーネンの省察理論と意味生成の沃野（査読付）	単	2013年03月	『教育学研究論集』第8号	終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。pp.1-20 教育者のタクトに関するM. ヴァン=マーネンの理論を導きとして、「ありうること」への開放という契機に着眼することで、事例の省察を通じたタクトの啓発という出来事の内実を解明。個々の実践に関する真摯な省察を通して獲得される、「ありうる」意味や「ありうる」本質への洞察、「ありうる」価値や「ありうる」規範への感性が、教育者の即座の判断を支えるタクトの基調にあることを明らかにした。pp.1-8
7. O.F. ボルノウ『練習の精神』とメビウスの輪（査読付）	単	2012年03月	『教育学研究論集』第7号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの著作『練習の精神』を読み解くことで、機能主義に基づく視点と機能主義を越えた視点を往還する、彼の議論に特有の「ねじれ」のダイナミズムを解明。この「ねじれ」が練習という営みの両義性を浮かびあがらせるものであると同時に、練習をめぐる問いの渦へと読者を巻きこんでゆくものであることを明らかにした。pp.7-19
8. 主体性の超克は現か夢か 「不眠症」の時代の教育思想	共	2010年09月	『近代教育フォーラム』第19号	M. ハイデガーの存在論、G. バタイユの超越論、E. レヴィナスの他者論を導きとして、「主体性の超克」という課題に孕まれている困難と、この困難を乗り越えるための指針を提示。担当は、コロキウムの企画趣旨を述べた第1節、ハイデガー哲学にみられる「知の宙吊り」という方法論の特徴を明らかにした第2節pp.173-178、コロキウム当時の討議の概要を記した第5節pp.183-184。※同題のコロキウムの報告論文。（井谷信彦、平石晃樹、宮崎康子）
9. The Aporia of the Other in Curriculum Construction: A Response to Anna Strhan (revised)	単	2010年03月	『臨床教育人間学』第10号	教育人間学・臨床教育学の視点から、教育学者A. シュトラーンの論稿「What is Religious Education?」の重要性と問題点を解明。宗教教育の理論・実践の両方に目を向けながら、E. レヴィナスの説く「他者」の問題を宗教教育のカリキュラムに組み込むことの困難や、シュトラーンの理論・実践が再び単なる知識に回収されてしまう危険性、およびこの危険性を克服するための方策を提示。※同題の研究発表の報告論文。pp.139-144
10. 存在論に立脚した教育理論の展開「有用化としての教育」に対する問いかけを軸に（査読付）	単	2009年03月	『京都大学大学院教育学研究科紀要』第55号	教育学とM. ハイデガー存在論との関係を精査することにより、存在論に立脚した従来の教育理論に共通の特徴と問題点を検証。これにより、存在論に立脚した従来の教育理論は、「有用性の尺度」や「価値の思想」に囚われた伝統的な教育学の原理を克服することを、共通の課題として掲げていることが示された。さらにまた、この有用性や価値の桎梏を克服しようとする探求も、結局は、有用性の尺度と価値の思想に絡め取られてしまっているという問題点も明らかにされた。pp.41-59
11. 「住まうこと」と世界の奥行き O. F. ボルノウ『新しい庇護性』再考（査読付）	単	2008年11月	『教育哲学研究』第98号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。我々人間の生と教育の基盤をなしている「被護性」の意義を説いたボルノウの理論を、彼が援用しているM. ハイデガーの論稿を導きとして検証。これにより、ボルノウの教育理論は人間の生を「役に立つか否か」という尺度に還元してしまうものであることが明らかにされ、また、これに対して有用性を越えた世界と人間存在の在り方を問うことの重要性が示された。pp.39-57
12. プレゼントが開く未知なる教育 児童文学や絵本を事例として	共	2008年09月	『近代教育フォーラム』第17号	交換に基づく人間関係と贈与に基づく人間関係とを対比しながら、単なる交換関係に回収することのできない、贈与関係としての人間の生と教育の局面を解明。担当は、コロキウムの趣旨を述べた第1節pp.167-168、「形ばかりの告示」に関するM. ハイデガーの議論を導きとして宮澤賢治の「水仙月の四日」を読み解いた第6節、指定討論者への応答を記した第7節、議論全体に基づく結論を述べた第8節pp.173-177。※同題のコロキウムの報告論文。（井谷信彦、宮崎康子、石崎達也、辻敦子）
13. 'Beyond the self' as a goal of education: Heidegger's philosophy and education in the West and in Japan (revised)	単	2008年03月	『臨床教育人間学』第9号	M. ハイデガーの存在論に基づく従来の教育理論を検証することで、P. スタンディッシュの唱える「自己を越えて」という理念が、これらに共通の目標として掲げられていることを明らかにした。これにより、存在論に立脚した従来の教育理論を相互に結びあわせるキーワードが示されると同時に、「自己を越えて」という理念を安易な理想・目標として掲げることの危険性が指摘された。※同題の研究発表の報告論文。pp.70-75
14. Comments: How to Read "Beyond	単	2007年03月	『臨床教育人間学』第	P. スタンディッシュの著作『Beyond the Self』に

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・ 共著書別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
the Self" ? (revised)			8号	関する論評。教育思想の歴史のなかにおける本書の位置、本書の説く「存在への開かれ」とはいかなる出来事なのか、我々はいかにして「存在への開かれ」を評価しうるのか、思索の方法の転換を求める本書をいかに読むべきか、などの観点を提示。これにより、「存在への開かれ」をめぐる思索の意義と困難を解明。pp.119-122
15. 無気味なるものをめぐる思索のスタイル O. F. ボルノウ『新しい庇護性』を読み直す	単	2007年03月	『臨床教育人間学』第8号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの教育理論を、単なる客観的な観察や論理的な証明といった「知」の枠組みから解き放つため、彼の著書『新しい庇護性』の序論を精査。これにより、ボルノウの教育理論について、議論の内容よりも作法に目を向けることによって、これまでとは異なる地平が開かれることが解明された。pp.45-60
16. 受苦的な経験における生の可能性 O. F. ボルノウ「非連続的な生の形式」再考（査読付）	単	2007年03月	『京都大学大学院教育学研究科紀要』第53号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。「危機」を人間の成熟の機会として捉えたボルノウの論稿を、現存在の「本来性」に関するM. ハイデガーの思想に照らして読み直すことで、危機と成熟をめぐる探索にふさわしい方法を検証。これにより、危機の役割に関するボルノウの思想を、客観的な観察や論理的な証明といった「知」の枠組みから解き放ち、これらとは異なる観点から読み解くための方途が示唆された。pp.32-44
17. 希望、この無気味なるもの O. F. ボルノウ「希望の哲学」再考（査読有）	単	2006年11月	『教育哲学研究』第94号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。「希望」の重要性を主張したボルノウの論稿を、M. ハイデガーの不安の分析論と対比することによって、「希望することを学ぶ」とはいかなることかを検証。これにより、ボルノウ自身が詳しく論じていない希望と不安との密接な連関が明らかにされ、「希望することを学ぶ」ことの両義性を孕んだ特徴が解明された。pp.1-20
18. 教育との連関における気分の哲学的「発見」 M. ハイデガー『存在と時間』以前のパトス解釈（査読付）	単	2005年05月	『教育哲学研究』第91号	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。「パトス」(pathos) 概念に関するM. ハイデガーの思想を導きとして、教育との関連で情念・受苦・病理などを扱うさいの困難を明らかにするとともに、この困難を乗り越えるための課題を提起。これにより、広く「パトス」に関わる教育学は、客観性や確実性を重要視する従来の「知」の在り方を問い直し、これとは異なる「知」の在り方を模索しなければならないことが示された。pp.47-65
その他				
1. 学会ゲストスピーカー				
2. 学会発表				
1. O. F. Bollnowの思想にみる「言語の外」をめぐる知の特徴	単	2017年10月	教育哲学会第60回大会一般研究発表	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの言語論、情感論、自然論などを読み解くことで、彼の思索の初期から晩年にまでわたる「言語の外」をめぐる知に関する議論の連関を検証。ボルノウの思想に見られる、直観以前の知の問題、知の無規定性と規定性の問題、「言語の外」に関わる予感の問題を精査することで、「言葉の外」をめぐる知に関する議論の全体像や問題点を解明。
2. 光を教育哲学する プラトン、コメニウスからフィンク、パトチカへ	共	2015年10月	教育哲学会第58回大会ラウンドテーブル	プラトンやコメニウスによる「光」をテーマとする教育思想と、フィンクやパトチカによるその受容を検証することで、「光」をテーマとする教育哲学の可能性を探索。指定討論者として、プラトンとハイデガーをつなぐ「光の教育哲学」の特徴が、真理を伝えようとする教師の受難にあることを指摘。コメニウス、パトチカ、フィンクらの思想における教師の受難と情熱 (passion) をめぐる論点を提示。(田端健人、相馬伸一、武内大、井谷信彦)
3. 主体性の超克は現か夢か 「不眠症」の時代の教育思想	共	2009年9月	教育思想史学会第19回大会コロキウム	M. ハイデガーの存在論、G. バタイユの超越論、E. レヴィナスの他者論を導きとして、「主体性の超克」という課題に孕まれている困難と、この困難を乗り越えるための指針を提示。担当は第一報告「ハイデガー存在論と『知の宙吊り』という方法」。「存在の真理」に関わるハイデガーの諸論稿を紐解くことで、有用性や価値に還元することのできない事柄を、素朴な目標やこれを達成するための手段に還元することなく学び知り／教え伝える、知識／伝達の在り方を提示。(井谷信彦、宮崎康子、平石晃樹)

研究業績等に関する事項

著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
2. 学会発表				
4. The Aporia of the Other in Curriculum Construction: A Response to Anna Strhan	単	2009年3月	The 2nd International Colloquium between the Institute of Education, University of London, and the Graduate School of Education, Kyoto University	教育人間学・臨床教育学の視点から、教育学者A. シュトラーンの論稿「What is Religious Education?」の重要性と問題点を解明。宗教教育の理論・実践の両方に目を向けながら、E. レヴィナスの説く「他者」の問題を宗教教育のカリキュラムに組み込むことの困難や、シュトラーンの理論・実践が再び単なる知識に回収されてしまう危険性、およびこの危険性を克服するための方策を提示。
5. 'Beyond the Self' as a Goal of Education: Heidegger's Philosophy and Education in the West and in Japan.	単	2008年3月	International Colloquium between the Institute of Education, University of London, and the Graduate School of Education, Kyoto University	M. ハイデガーの存在論に基づく従来の教育理論を検証することで、P. スタンディッシュの唱える「自己を越えて」という理念が、これらに共通の目標として掲げられていることを明らかにした。これにより、存在論に立脚した従来の教育理論を相互に結びあわせるキーワードが示されると同時に、「自己を越えて」という理念を安易な理想・目標として掲げることの危険性が指摘された。
3. 総説				
4. 芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
5. 報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1. 詩歌と「言語の外」をめぐるボルノウの思想 パトリジカルな知としての予感	単	2018年07月	「単元を貫く言語活動」研究会	現代ドイツの教育学者O. F. ボルノウの教育理論の射程と問題点を再検証するための探索の一環をなす論稿。ボルノウの言語論、情感論、自然論などを通覧することで、詩歌の働きに関する彼の思想を検証。これにより、言語のほか認識の通路を認めないボルノウの思想が、なおも「言語の外」へと向かおうとするときの議論の緊張と錯綜を解明。言語をもちいた芸術としての詩歌が、「言語の外」に関わる「知」の沃野を拓くという洞察に、ボルノウの思想の特徴があることを明らかにした。
2. 問いの螺旋へ 教育哲学者の語りの作法	単	2013年10月	教育哲学会第56回大会 ラウンドテーブル	O. F. ボルノウとM. ハイデガーによる著作を導きとして、東日本大震災によって深刻な被害を蒙り、日常生活を支える様々な境界と根拠が失われた現代社会にあつて、教育哲学者が取りうる語りの作法を概説。希望、被護性、技術、放下などをめぐる両者の議論が、重大な矛盾や自家撞着を孕んでいることを明らかにしたうえで、唯一絶対の「答え」ではなく終わりなき「問い」を喚起するような、哲学者に固有の語りの特徴と意義を提示。※井谷信彦(2013)「問いの螺旋へ 教育哲学者の語りの作法」『教育哲学研究』第108号にもとづく話題提供。
6. 研究費の取得状況				
1. 教育における宗教性に関する思想的・人間学的研究 「京都学派」教育哲学を中心に	共	2012年4月～2015年3月	日本学術振興会	京都学派の哲学者や、これに関わる思想家、さらにこの影響を受けた教育学者などの理論を精査。宗教性や超越性といった契機が、人間形成にとって有している意義を解明。担当は、M. ハイデガー、O. F. ボルノウ、M. ヴァン＝マーネンらの理論にみられる、世界の奥行きをめぐる思想の探索。ヴァン＝マーネンの省察理論に見られる意味生成の沃野や、絶望のなかの希望をめぐるハイデガーとボルノウの語りの作法、および小学校の図工の授業に見られる「再生」というモチーフの特徴を解明。（研究分担者）

学会及び社会における活動等

年月日	事項
1. 2018年09月	高槻北高校「教志体験」講義「playfulな学びの舞台をつくる」講師
2. 2018年08月	「教育×即興×省察ワークショップ11 インプロ・ゲーム」主催・講師
3. 2018年08月	「教育×即興×省察ワークショップ10 イエナプラン」主催
4. 2018年06月	「即興演劇×音楽×ダンスで遊ぼう♪ 02」主催
5. 2018年06月	「できそうにもないことワークショップ vol. 6 造形遊び」主催
6. 2018年06月	「教育×即興×省察ワークショップ09 英語教育」主催
7. 2018年04月	「即興演劇×音楽×ダンスで遊ぼう♪ 01」主催
8. 2018年04月	「教育×即興×省察ワークショップ08 即興音楽」主催・講師
9. 2018年03月	「教育×即興×省察ワークショップ06 即興演劇・即興群読」主催・講師
10. 2018年03月	「教育×即興×省察ワークショップ07 即興演劇」主催
11. 2018年02月	「教育×即興×省察ワークショップ05 即興群読」主催・講師
12. 2017年12月	「教育×即興×省察ワークショップ04 組織開発・英語教育」主催・講師
13. 2017年11月	「即興型学習研究会 2017年度 第4回」ゲスト講師
14. 2017年10月	教育哲学会第60回大会 ランチタイムセッション 話題提供

学会及び社会における活動等

年月日	事項
15. 2017年10月	「教育×即興×省察ワークショップ03 即興群読」主催・講師
16. 2017年10月～現在	教育哲学会機関紙編集委員会 編集幹事
17. 2017年08月	「夏休み おためし版「即興×リフレクション」体験会2017」主催・講師
18. 2017年07月	「教育×即興×省察ワークショップ02 環境教育・芸術教育」主催・講師
19. 2017年04月	「できそうにもないことワークショップvol.5 絵本遊び」主催
20. 2017年04月	「教育×即興×省察ワークショップ01 即興演劇・英語教育」主催・講師
21. 2016年12月	「できそうにもないことワークショップvol.4 即興ダンス」主催
22. 2016年10月	「即興型学習研究会 第4回」ゲスト講師
23. 2016年08月	「できそうにもないことワークショップvol.3 即興演劇」主催
24. 2016年03月	「できそうにもないことワークショップvol.2 沈黙」主催
25. 2016年03月	「ダイバーシティ・ダイアログ 教育×きょういく！vol.10」ゲスト・スピーカー
26. 2015年12月	「できそうにもないことワークショップvol.1 即興音楽」主催・講師
27. 2015年10月	教育哲学会第58回大会 一般研究発表 司会
28. 2015年09月～現在	教育思想史学会 事務局長補佐
29. 2015年09月	「アクティブ・ラーニングだいけんきゅう！」コーディネーター
30. 2015年03月	「ダイバーシティ・ダイアログ 教育×きょういく！ vol.1」ゲスト・スピーカー
31. 2015年01月	「遊びと学びのパラドックスを遊ぶ」講師
32. 2014年02月	「大人の楽々コミュニケーション講座vol.3」主催・講師
33. 2013年10月	「大人の楽々コミュニケーション講座vol.2」主催・講師
34. 2013年10月	教育哲学会第56回大会 一般研究発表 司会
35. 2013年04月	「大人の楽々コミュニケーション講座vol.1」主催・講師
36. 2012年11月	関西教育学会第64回大会 自由研究発表 司会
37. 2012年08月	西宮市立総合教育センター主催 10年次教員研修 講師
38. 2011年11月～2012年11月	日本乳幼児教育学会第22回大会準備委員